

平和とよりよき生活のために 広島の せいきょう

第19号 2006年12月18日
広島県生活協同組合連合会発行
〒730-0012
広島市中区上八丁堀8-23 林業ビル4F
TEL 082-502-3850
FAX 082-502-3860
E-mail:kenren.h@proof.ocn.ne.jp
URL:<http://kenren.jccu.coop/hiroshima/>

第35回 広島県生協大会開催しました 10/23

～“地産地消”運動は食と農と地域をつくる～

主催者挨拶
富田巖会長理事



10月23日(月)、メルパルクHIROSHIMA(広島市中区)にて、第35回広島県生協大会を開催しました(参加者270名)。

式典は、主催者富田巖会長理事の挨拶に始まり、ご来賓のみなさまよりご挨拶を頂戴しました。広島県副知事有岡様からは食の安全や消費者被害防止の取り組みについて、県議会副議長の多賀様からは8月の呉・江田島市断水時の飲料水提供などの地域貢献活動について、広島市民局長竹本様からは行政と連携した平和活動やユニセフ活動についてなど、日頃の生協の取り組みに対する評価や期待と励ましのメッセージを頂きました。

記念講演では、講師にJA広島中央会専務理事の黒木義昭さんをお迎えし、「食と農のゆくえ～食育と地産地消」についてお話をうかがいました。

はじめに、世界の中の日本の位置づけとして、世界人口の2%の日本が農産物輸

入の10.2%(金額ベース)を占め、農産物純輸入額世界第1位にある現状や、65億人の世界人口のうち7人に1人は飢餓・栄養不足の状態であることなどを聞き、その後、日本の食べ残し・食品廃棄の実態や一見豊かに見える食生活の中の課題・栄養バランスの偏りと生活習慣病、「欠食」「孤食」「個食」(家族が別々のものを食べる)等の食習慣の乱れなどについて、問題提起いただきました。最後に、「食農教育」により、伝統と風土に沿った食生活と「もったいない」の精神を取り戻すことの大切さを説かれ、「“地産地消”運動は、消費者と生産者・都市と農村をつなぎ、食と農と地域をつくる『新しい協同』の取り組み」と締めくくられました。熱心に聞き入る参加者のどよめきや笑い声が印象的で、終了後、地域での学習会の講師をお願いしたいと黒木さんに早速申し入れる組合員の姿もありました。

協同組合関係をはじめとする友誼団体から多くの参加をいただき、食農教育とあわせて協同組合連携の意義も再認識する今大会となりました。

ご来賓

- 有岡 宏 様(広島県副知事)
- 多賀 五朗様(広島県議会副議長)
- 竹本 輝男様(広島市市民局長)
- 黒木 義昭様(広島県農業協同組合中央会専務理事)
- 古瀬 順史様(広島県労働者福祉協議会事務局長)
- 照井 雅史様(日本生協連合会 中四国地連事務局長)



グローバルな視点から地産地消と
食農教育の大切さを話される黒木さん

活動発表



生協ひろしま 理事
野菜推進の会
安宅道子さん

「食育と地産地消」の取り組みについて、産地見学や料理教室などの活動を報告



広島医療生協 理事
兼本靖子さん

地域の子育て支援ー親子歯科チェック、子どもたちの環境マップづくりなどを「子どもたちと一緒に健康づくり、まちづくり!」と題して報告

県連の活動

生協法の改正に取り組んでいます

消費生活協同組合法(生協法)の改正に向け、2006年7月より厚生労働省に「生協制度見直し検討会」(座長:清成忠男 法政大学学事顧問・法政大学名誉教授)が設置され、2007年内の制定をめざし準備が進められています。1948(昭和23)年の制定から半世紀を越え、生協が2千万人を超える組合員を擁する消費者・市民組織に発展する中、県域規制や員外利用規制など社会の変化にそぐわない点が発生し、社会に開かれた組織を目指す上で矛盾が生じてきています。また、ガバナンスや共済事業での契約者保護等についても、制定当時は町内会生協が想定されていたため不十分な点があり、今の生協に求められる社会的責任に見合った運営制度への見直しが必要です。

広島県生協連でも、議員訪問、パブリックコメントの提出や商工会議所等への訪問など、改正への理解を求め積極的に活動しています。



中川秀直衆議院議員(自民党幹事長)に要請

「核兵器禁止条約の早期締結を求める」請願署名42,553筆

今年も「核兵器禁止条約の早期締結を求める」請願署名に取り組み、広島県選出の国会議員15名中13名に紹介議員になっていただき、第165回国会に提出しました。ご対応くださった議員の皆様に感謝申し上げます。

社会保障と憲法学習会 開催しました

神戸大学教授の二宮厚美さんを講師にお迎えし、「社会保障と憲法学習会～25条+9条とわたしたちのくらし」について学びました(2006年9月21日(木)、広島YMCAコンベンションホール)。

「社会保障制度や税制の改訂が『必要充足応能負担』から『応益負担』へと変えられつつある現状は、憲法第25条に保障されている生存権を脅かす問題」など、問題提起いただきました。参加者からは「憲法を抜きには生存が危うくなる人の視点に立ったお話しは、私たちが憲法を考える上でも重要な姿勢と思った」などの声が寄せられました。全ての命が大切にされる社会の実現をめざし学び活動していくことを90名の参加者と確認し、閉会しました。



テンポよく分かりやすいお話しの二宮さん



共催:広島中央保健生協・広島医療生協・生協ひろしま・広島県生協連

「ユニセフ・ラブウォーク in 因島」日立因島生協が開催しました

2006年10月15日(日)、秋晴れの空の下さわやかな海からの風を感じながら、約65名の参加者が、因島大橋を元気に歩きました。参加者は、参加費200円をユニセフに募金しました。

「ユニセフ・ラブウォーク」に、県内生協主催では初めて日立造船因島生協が取り組みました。ウォーキング後は、共催の(財)日本ユニセフ協会広島県支部のスタッフによるユニセフクイズを通じ、世界の子どもたちについて学びました。



ウォーキングと募金で身心とも晴ればれ

「県民参加の森づくりシンポジウム」にパネリストとして登壇

広島県主催の表記シンポジウムで、県生協連の岡村信秀専務理事がパネリストとして発言しました(11月29日(水)、広島市西区民センター)。「住まいのセミナー」等の実践を紹介し、「食の地産地消と同じく、木材も顔が見える関係が重要」と、山と都市の距離を縮める大切さを訴えました。森林環境税(仮称)導入も検討されている中、白熱した議論が展開されました。



消費者の立場から「木材の地産地消が森林荒廃への歯止めの要」と発言する岡村専務理事(右から2番目)

◆住まいのセミナー&山のセミナー2006 【主催:木の香る住宅工房・広島県生協連・JAグループ広島】

- 住まいのセミナー ①6/10 ②7/29 ③8/26 ④9/9(全土曜)
- 山のセミナー ~秋の伐採見学~ 11/11(土)

“安全・安心な住まいづくり”と“森林保全”と一緒に考える「住まいのセミナー」を今年も開催しました。講師は、木の香る住宅工房*の建築家らが務め、「丈夫な家～地震や台風に強い木の家のつくり方」「すこやかな家～木や自然素材を活かした身体にも環境にも良い家のつくり方」などをテーマに、4回シリーズで開催しました。毎回のアンケートをもとに内容を工夫し、参加者と相互にやりとりするセミナーは好評で、8年目の今年も、リピーターと新たな参加者計のべ94人と一緒に楽しく学びました。

*木の香る 木の特性を活かし、“丈夫で長持ち”“住まい手の健康を考えた”“適正な価格”+“街並みや環境に配慮”した家を、作り手と住まい手の顔の見える関係でつくることをめざす、林業家から工務店までの専門家ネットワークです。

<http://www.enjoy.ne.jp/gendai/KKJK-top.html>



下20林業家の説明を聞く参加者
草刈りにチャレンジ！（左）
上山のセミナー

◆広島県協同組合大会 【主催:広島県協同組合連絡協議会(HJC)・中国新聞社】

「引き出そう 食・自然・地域のちから～豊かな地域社会の実現めざして～」をスローガンに、広島県協同組合大会が11月28日(火)に国際会議場で開催され、1,400人余りが参加しました。

農民作家山下惣一さんの「農の現場から」と題した基調講演に続き、パネルディスカッションでは、広島県生協連・食の安全委員会代表の橋野俊子理事が消費者の立場で、JA、小学校教諭らと並んで登壇。産地見学から生まれた生産者との交流エピソードを紹介し、「農業を大切にし、日本古来の食べ物と食文化を見直し子ども達に伝えていく場作りを積極的に行うことが大切」と呼びかけました。

最後に、広島中央保健生協新谷豊子さんが、「“食”は感謝と命の大切さを、“地域”的な人のつながり”は豊かな心を育む教育力がある。それらの力を引き出し、安心して暮らせる社会を築くため、地域に根ざした運動を展開していきます」と大会宣言を読み上げ、閉会しました。



左から中国新聞社編集委員室長 山城さん、農民作家 山下さん、広島大学附属小学校教諭 西さん、広島県生協連 橋野理事、JA広島中央会専務理事 黒木さん

◆消費者のつどい2006 【主催:広島県・広島県消費者団体連絡協議会】

広島県と広島県消費者団体連絡協議会が毎年合同で開催している「消費者のつどい」が、11月17日(金)に開催されました(広島県立総合体育館 大会議室)。

前半は、JA広島県女性組織協議会が「ひきつごう 安心・安全を次世代へ」をテーマに、消費者と生産者の顔を併せ持つ立場からの活動を、廿日市消費者協会が「負けない地域づくりを目指して」と題し、寸劇で悪質商法への啓発(廿日市消費者協会)の一端を紹介しました。

後半は消費生活アドバイザーの出路千恵さんを講師に、「ライフプラン講座～2007年から始めるゆめをかなえるためのライフプラン～」と題して、人生を豊かにつくるための心構えと準備について、示唆に富んだお話を聞きました。



軽快な語り口の出路さん



<活動発表>
寸劇で悪質商法への啓発(廿日市消費者協会)

◆「つくってみようよ!自分の朝ごはん」

広島県と(財)ひろしまこども夢財団共催で行った「作ってみようよ!自分の朝ごはん」に県生協連が審査員として参加しました。10月15日(日)、広島フードフェスティバルの中央ひろばで、優秀賞に選ばれた東広島市の杉山さん(5年生)に県生協連の岡村専務理事が賞状と副賞(コープ商品詰め合わせ・図書カード)を贈呈しました。



「納豆を工場で小魚等夫に食べられました」という

会員生協レポーターからの報告



日立因島生協が葬祭事業を開始

～「コープメモリアルホール」OPEN～

2006年11月11日、日立造船因島生協の新規事業である葬儀会館「コープメモリアルホール」が完成し、業務を開始しました。

このホールは少子化・人口の減少等による不採算店舗を増床・改装し転用したもので、敷地面積917坪、ホール・会食室など各2部屋と100台の駐車場を設置し、1日2件の葬儀施行に対応します。コープメモリアル会員（入会金1万円）には、ホール葬・自宅葬とともに会員価格等の特典があり、現在募集活動を行っています。

当生協では、この事業を店舗・共同購入に次ぐ第3の柱として位置づけ、葬儀から返礼品・仏壇・墓石までの総合葬祭事業として、組合員の声である「安心価格でまごころ込めたサービスを…」に応えられるよう、誠心誠意努めています。

コープメモリアルホール
尾道市因島中庄町3185 TEL 0845-24-1194(イイヨク)



広島医療生協40周年記念行事

～街角に残す被爆の記憶 核兵器廃絶の思いを込めて～

2006年10月14日、広島医療生協では、生協創立40周年記念として原爆の絵碑を建立しました。絵の作者は3人の組合員。内2人が除幕式に出席しました。当時役場勤務だった川内在住の森正喜美子さんは「(建物疎開に)送り出して帰ることのなかった人達の足音が今も耳に残っている。その人達のことを思って描いた」と話し、国民学校5年生だった可部の新澤慶子さんは、冊子『子どもの目で見た八月六日』を、子ども達に伝えていきたいと、当時の同級生と一緒に作ったことも紹介しました。

除幕式の後、「被爆者が描いた原爆の絵を街角に返す会」の会長で作家の早坂暁氏が、絵碑に寄せる思いを「原爆を知らない人の心をゆさぶるには、原爆資料館だけでは不十分。広島の街のいたるところにあった惨状を、被爆者がその眼で見た光景を、今生きている広島の街の中で絵として人々に見てもらいたい。そして、原爆の恐ろしさをよりリアルに知ってもらいたい」と語り、北朝鮮の核実験にもひれて、「被爆国として核兵器の恐ろしさをもっともっと世界に訴えねばならない」「核の被害者にならないためにも絶対に核兵器を持ってはならない」と訴えました。



広島県「平和18年大規模災害対応シミュレーション訓練」に参加

広島県主催の標記訓練が2006年11月27日に行われ、生協ひろしま・日立因島生協・コープCSネット・日生協中四国地連・広島県生協連事務局から6名が参加しました。「安芸灘を震源とするマグニチュード7.3(最大震度6強)の地震が8:30に発生」との想定で、発生5時間後の13:30～17:00の対応をシミュレーションしました。

行政以外の団体・企業が加わるシミュレーション訓練は、広島県では今回が初めてで、行政の動きと団体・企業の連携のイメージをつかむことができました。訓練終盤に行われた知事出席の「本部会議」(行政各部局トップが、知事に進捗状況を報告)では、商工労働部から「生協等の協力もあり…」との発言もありました。

広島県生協連では、2007年度より「災害対策検討会」を立ち上げ、災害時の情報伝達網の整備などを進め、一層行政と連携して地域に貢献できるよう、努めています。

▼ 「吳市へ毛布5千枚」等の指示に調達・運搬等の方法を検討する因島生協吉村課長(中央)、生協ひろしま重信課長(右)



▲ 知事出席の本部会議で、商工労働部より「生協等の協力もあり…」との報告

